

令和7年度

福島町議会基本条例諮問会議

会 議 録

令和7年12月18日

福 島 町 議 会

会議録の作成にあたっては、誤りのないよう留意しておりますが、時間の関係上、原稿校正は初校よりできなく、誤字、脱字がありましたら、深くお詫び申し上げます。

まことに恐れ入りますが、ご了承のうえご判読いただきたくお願いいたします。

福島町議会議長 溝 部 幸 基

令和7年度

第3回福島町議会基本条例諮問会議

令和7年12月18日（木曜日）

◎諮問会議委員（7名）

諮問会議会長	極 檀 忠 男	諮問会議委員	村 山 和 治
諮問会議委員	久 野 寿 蔵	諮問会議委員	清 水 紘 太
諮問会議委員	奈 良 美代子	諮問会議委員	對 馬 大 輔
諮問会議委員	常磐井 武 典		

◎欠席委員（5名）

諮問会議委員	本 庄 丈 晴	諮問会議委員	澤 田 寿 生
諮問会議委員	松 村 江身子	諮問会議委員	洪 谷 悟 史
諮問会議委員	成 田 えり子		

◎欠席顧問

諮問会議顧問	神 原 勝
--------	-------

◎出席議員（3名）

議 長	溝 部 幸 基	副 議 長	平 野 隆 雄
議会運営委員長	平 沼 昌 平		

◎委員外議員（6名）

議 員	藤 山 大	議 員	杉 村 志 朗
議 員	佐 藤 孝 男	議 員	小 鹿 昭 義
議 員	木 村 隆	議 員	熊 野 茂 夫

◎職務のため議場に出席した議会事務局職員

議会事務局長	鍋 谷 浩 行	議会事務局議事係長	山 下 貴 義
議会事務局議事係	角 谷 里 紗		

○諮問会議会長（極檀忠男）

皆さん、こんばんは。

本日は、お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。

令和7年度の会議も3回目となり、諮問会議の年間予定では本日の会議が最後となります。

議長からの諮問事項について、しっかりと議論をして、結論を整理し、議長に提出する答申案をまとめていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから、第3回諮問会議を開会いたします。

本日の出席委員は12名中7名であり、諮問会議条例の会議開催要件を満たしておりますので、会議は成立いたします。

始めに、溝部議長に挨拶をお願いいたします。

○議長（溝部幸基）

改めまして、局長も会長のほうからも「こんばんは」と言われましたが、私のほうからも改めてお晩でございます。

大変お忙しい中ご出席いただきまして、どうも本当にありがとうございます。

今日、諮問会議今年度の最後になりますので、よろしくお願いいたしますと思います。

協議事項につきましては、残りの分の次期改選期に向けた議会体制の見直しについて、先般、12月12日に第5回の特別委員会を開催しまして、その協議内容を今日、整理ができましたのでペーパーで差し上げていますので、その内容について若干後のほうで説明をしますので、忌憚ないご意見を伺えればと思っております。

議会改革の部分については、このあと、今日の諮問会議の意見を参考にして、また意見を調整をして、来年2月3日から例年どおりの町民との懇談会を6日間各3班に分けて計18会場で町民との懇談会を開催いたします。そのなかでまた色々な意見があるという風に思いますので、それらの意見を参考にしながら最終調整をして3月定例会に特別委員会の報告をしていただいて、その内容を整理して各規定に調整をしなきゃいけないものを検討して、来年度6月会議に議案として提案をして、来期の選挙に向けて各項目について調整をして作業を進めていきたいと思っております。

神原先生とも11月札幌出張の際に懇談をして色々アドバイスをいただいて、第1回会議の際に神原先生のほうから指摘を受けました条例の関係の調整も3月いっぱいまで調整をして、それも含めて来年度の6月会議に条例を提案するという形をとりたいと思っておりますので、また、その方向性が出ましたら皆さんにもお伝えしたいと思えます。

それと、諮問委員の皆さんの任期が今年度の分で来年3月までということになります。改めてまた各団体のほうの推薦のお願いとか一般の公募も改めてしますけども、できうれば今回色々経験していただきましたので、引き続き皆さんにもまた諮問会議のほうにお願いをしたいということで考えてもらえればと思えます。

話が長くなりましたので、そういったことで色々このあと諮問会議の進行終えましたら、局長から話しましたけど議員との忌憚のない懇談ができればという風に思います。

日頃色々感じている部分も含めて、範囲を特定しないで町政全般にあたっての考え方等も含めて何かに対するご意見等があれば、忌憚なくお話していただくことをお願いをして開会についての挨拶とさせていただきます。

今日はよろしくお願いいたします。

○諮問会議会長（極檀忠男）

溝部議長、ありがとうございました。

本日の協議事項は、次第の5に記載のとおり、前回に引き続き「次期改選期に向けた議会体制の見直し等について」と、今年度の議長諮問に対する「答申（案）」の2件となっております。

また、冒頭、事務局から報告にもあったとおり、議員との懇談を予定しております。

会議は次第に沿って進行いたします。限られた時間の中での会議運営となりますので、委員皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、早速、会議を進めます。

まず、会議次第の3「前回会議の確認について」を事務局より説明願います。

(事務局より説明あり)

○**諮問会議会長(極檀忠男)**

説明が終わりましたが、意見等はないでしょうか。

この件に関しましては既に何回かご意見いただき検討してまいりましたが、最後に何か質問等ございませんか。

協議したいことはありませんか。

○**諮問会議会長(極檀忠男)**

ないようですので、それでは前回会議については、そのように整理いたします。

次に会議次第の5. 協議事項の「(1) 調査審議を求める事項」、「イ. 次期改選期に向けた議会体制の見直し等」について、事務局より説明願います。

(事務局より説明あり)

○**諮問会議会長(極檀忠男)**

説明が終わりましたので、一括して疑問な点や不明な点の確認も含めまして、意見交換を行いますので、ご発言をお願いいたします。

どなたかございませんか。

内容的には前回会議の確認等にだぶるところもありますけども、何かございませんか。

当町では議員のなり手対策ということで、どこかで取り入れています議会モニターの導入ということもありますけども、当町では先んじて今回私達集まっている議会基本条例諮問会議委員という形ですで行われております。

従って、改めて議会モニターというのは導入しないで、その定員を増やす方向で現在進行しております。これは前回の会議で確認しております。

何かございませんか。

清水さん何かご発言ありませんか。

(「ありません。」という声あり)

○**諮問会議会長(極檀忠男)**

その他ありませんか。

常磐井さんありませんか。

(「ございません。」という声あり)

○**諮問会議会長(極檀忠男)**

意見がないということで、それでは、一通り皆さんからご意見ということですがありませんので、その内容をまとめて答申案として整理し、後ほど委員の皆さんに確認していただきます。

次に、5. 協議事項の(2)「答申(案)について」事務局より説明願います。

(事務局より説明あり)

○**諮問会議会長(極檀忠男)**

説明が終わりました。答申(案)については、記載しているところで「こういう表現の方が良い」とか「この部分も付け加えた方が良い」などのご意見がありましたら受けたいと思いますので、皆さんどうでしょうか。どんなことでも結構ですので、字句の訂正だとか、こういうのを入れたらどうですかとかご意見がありましたら、皆さんのご意見を聞きたいと思います。

○**諮問会議委員(村山和治)**

俺も今初めてゴミのあれってわかりました。

○**諮問会議会長(極檀忠男)**

減量化ね。

○**諮問会議委員(村山和治)**

PRとかが不足してあったのかなって。

○**諮問会議会長(極檀忠男)**

對馬さん何かありませんか。

(「なし。」という声あり)

○**諮問会議会長(極檀忠男)**

奈良さん何かありませんか。

(「ありません。」という声あり)

○**諮問会議会長(極檀忠男)**

久野さん。

(「なし。」という声あり)

○**諮問会議会長(極檀忠男)**

意見がないようですので、それでは、本案件については記載の部分については原案どおりとし、本日審議した案件については最終調整を会長に一任していただき、令和8年1月中の答申に向けて進めることにしたいと思います。ご異議ございませんか。

(「なし。」という声あり)

○**諮問会議会長(極檀忠男)**

ご異議なしと認め、そのように進めます。

次に、その他について事務局より説明願います。

(事務局より説明あり)

○**諮問会議会長(極檀忠男)**

説明が終わりましたので、確認したい点がありましたらご発言をお願いします。

ただいまの事務局の説明で何か諮問したいこと何かありませんか。

(「なし。」という声あり)

○**諮問会議会長(極檀忠男)**

ないようですので、その他についてはこれで終了いたします。

それでは本日の案件を一通り終えましたので、最後に、議員との懇談を行います。

諮問会議としては初の試みとなりますが、特にテーマなどは設けておりませんので、日頃、議会・議員に対して感じている事や、現在見直しを進めている次期改選期に向けた議会体制についての議員の考えなど、何でもよいので意見交換をしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

なお、時間は40分程度を予定しておりますので、諮問委員・議員どちらでも結構ですので、ご発言をお願いいたします。

まず、諮問委員さんの方から議員さんに何か質問等があれば、お願いしたいと思います。

何かありませんか。

清水さん何か、何でもいいです。日頃のことです。こういうこと気づいているんだけどなとか、皆さんも考えておいてください。議員さん方にはなり手不足とか色んな問題がありますので、議員さんに逆に質問等でもいいです。

奈良さん。

○**諮問会議委員(奈良美代子)**

先日新聞に出ていたんですけど、栗山町で議員さんのなり手がなくて議員の報酬を上げるというのが新聞で見たんですね。それを多分皆さん見ていると思うんですけど、それを見た時にどういう風感じたのかなと思って。

○**諮問会議会長(極檀忠男)**

栗山町の報酬出ていましたね。確かになり手不足というのは全国的なこともあるので、その中で栗山町は歳費を上げるというね。

○**諮問会議委員(奈良美代子)**

上げるというのを見たんです。

○**諮問会議会長(極檀忠男)**

ということで、議長どうでしょう。とりあえず代表して。

○**議長(溝部幸基)**

代表してというわけには。これは今回の検討事項の部分にも議員歳費の部分があるんですけども、うちの場合は諮問会議にお願いをして、それで今の方式ですね。

これは全国の町村議長会で昭和30年代だいたい早くからそういう方式というのは町長の活動日数に合わせて議員の活動状況がどうかという部分で、結構詳細に目に見える議場で活動する定例会とか常任委員会とか、それと目に見えない活動ですね。そのための準備をするのに例えば一般質問するとしたら自分の家で準備するわけですよ。常任委員会になったら調査事項について家で検討して本番に臨むみたいなそういうものを全部細かく整理して、それで町長の活動状況等合わせて基本的には大体33パーセントぐらいだろうという計算方式をとって、最初は当時の町長助役・収入役・特別職3人の平均の報酬に対して算定したんですけども、全国的に何件か出てくるのは、全国の議長会で対応視察したのは、町長との比較ということだったものですから、今の鳴海町長に代わってからはそういう部分で理解をしてくれて改正をして、そして、今の町長対比で報酬を決めて上げているという状況です。

それと、ほかと違うところは、以前は報酬審議会という会議の中で、役場の特別職とかそれと諮問会議のメンバーとかの報酬を決めるものに議員の報酬も一緒にそこで決めていたんですけども、さっき言ったような方式にしたものですから、それをほかのものと別にして、今は議員の歳費の報酬ということで今言ったようなことを条例で別に対応しているものですから、町側のほうの諮問会議には議員の歳費は検討事項に入っていないんです。

最初は議会の方は遠慮して一緒にして諮問会議の方でも検討してもいいですよということだったんですけども、町側の方からそういう方式で決めているのであれば、諮問会議にかける必要はないでしょうということなので今の形がありますので、私は特に改正した今の状況では、改正する前は特に合併問題とかという間違いなく管内では一番低かったですし、北海道の中でももっと小規模の村の議会の報酬より低かった。全国的に見ても最低ラインのベースだったんですけども、そういうきちっと町長と対比して活動日数を整理して今の福島町方式で対応した形でやるとこの金額ですよということなので理解していただいて今の状況がありますので、栗山と比較してどうかということも、上げてほしいというもっと上げるべきだという議員の中の意見もあるんですが、そういう方式でやった形で管内でも今の段階でも4番目か5番目ぐらいの上位にありますので、今のところは議会全体としてはこの状況でいいだろうという形になっています。

町長側もそうですけども、職員では人勧と言って、国のほうで毎年大体11月か12月になるとベースアップという風にして率を後半、今回もボーナス0.05ヵ月上げるということで、職員と一緒に対応すると議員の方も同じように形で上げるような形になっていますので、そういった面では管内の議会、北海道全体の議会から見ると整理して確定しているの、今のところは私自身もそうですし、議会全体の意見としてはこのままでいいでしょうということになっています。

○諮問会議会長（極壇忠男）

ということで、議長お話ししましたとおり、一応今回論議にあるのは根拠を立てて、この根拠というのは三役、町長とかの給料とかを参考にしてということなので何年前でしたっけ。

○議会事務局長（鍋谷浩行）

令和5年ですね。令和4年に検討して今に……………。

○諮問会議会長（極壇忠男）

令和5年に改正して現在があるものですから、その時に大幅に上げた経緯があるものですから、それも今議長話した根拠。

○議長（溝部幸基）

神原先生の指導を受けながら、結構当時の事務局も大変だったと思うんですけど色々な資料をまとめて冊子にして、結構その部分については視察に来て方式を勉強して行っている議会もあるんです。管内でもそういう風に同じような方式でなかなか検討しないんですね。近隣町の報酬と比較して3万円上げるとかそういう議論はなかなか町民の皆さんに理解されないだろうということで、今福島でやっている方式を考えて検討した。それも諮問会議の中で……………。

○副議長（平野隆雄）

福島町方式というのでずっときているんです。今の栗山はそういう方式がない。とんでもない、私達から見たらとんでもない金額だなと思いますね。

そういうことですから、今度そういう福島町方式そういう方式持っていない町村は、これを栗山町に見習うように上げていくところもあると思いますね。うちの場合はないですけども、それで決まっているということだから、それで条例改正するより上げれないと。そのうちに町長も上がるんでないですかと思

ます。

○**諮問会議会長（極檀忠男）**

ということで、周りにはない福島町方式という形で先行したようなやり方で、皆さんがそれを真似ているという形とっているみたいですね。

そのほかありませんか。

○**議長（溝部幸基）**

奈良さんは、もっと上げてもいいという風に思っているということですか。

○**諮問会議委員（奈良美代子）**

すごい額だなと思ってしまって。

○**議長（溝部幸基）**

栗山がね。

○**諮問会議委員（奈良美代子）**

栗山が。それと、だから福島町と比較した場合に、議員さんがどう思ったのかなという疑問です。

○**諮問会議会長（極檀忠男）**

逆に話を振った方がいいですね。それで満足しているかどうかということ。

議員さん方来ていますので、順番にどうですか、ご意見。

順番に教えてください。

○**副議長（平野隆雄）**

私先ほど言いましたけども、それ以外に年金とかありますから、その値段でやっていけるのかなと。やってきていますから、若い人達はどう思っているのか聞いてください。

○**諮問会議会長（極檀忠男）**

次、順番をお願いします。

平沼議員。

○**議会運営委員長（平沼昌平）**

議員の歳費ですか。全然足りないと思います。

○**諮問会議会長（極檀忠男）**

その根拠は。

○**議会運営委員長（平沼昌平）**

やっぱりその我々みたいに仕事をやりながら議員をやっているから何とか議員で生活は、生活できるような歳費でないと私は駄目だと思うよね。なり手のことを考えると。

そうであれば、やっぱりそれなりに専属でやっていけるような歳費をやっぱりやっていただかないことには、新しい議員のなり手というのは出てこないと思う。

よって、どこの町も議員1本でやっている議員さんはほぼほぼいない。仕事をやりながら議員をやっているということになると、どうしても自分の仕事の方にウエイトが多くなってくるので、片手間な議員活動として見てもらえないんじゃないかという風に思います。

だから歳費を多くすればそれだけ活動日数も増えるわけですから、私は多い方がいいと思います。けど、福島のこの今のやり方は理にかなっているんです。町長の約3分の1、これを町民の皆さんが3分の1じゃなくて、もっと町長と近似した数字になるんじゃないかって言ってもらえるような議員活動にしていければこれは自ずと上がるわけですからいいのかなと思っています。ただ、今のままであれば、どこの町も同じようにこういう議員活動しかできないかなって思っています。

○**諮問会議会長（極檀忠男）**

福島町方式の再検討ということですね。できればもっと上げてほしいと。

続いて、藤山議員お願いします。

○**委員外議員（藤山大）**

私は歳費については議場でも特別委員会でも上げたほうがいいという意見は出したんですよ。でも、現状としたら福島町方式あるというのであれば、今町長の日数が365日に対しての議員の活動日数から割り出した数字が30何パーセントであるならば、その給料というか歳費を上げるのであれば、町長の365日じゃなくて、本当は365日なんだけどそこを日曜日も公務なり色んなことあるにしても、土曜日を

減らすということは317日に対して議員活動それで割り出していったら給料上がるんじゃないかという提案はさせてもらったんですね。要は、分母の部分を変えたら給料上がるのでどうですかという意見を出してもらった。本来であれば、ちょっと給料上がる方がこれからなる人も色んな面で助かる面も出てくると思いますし、給料上がればいいなと思っています。要は分母を変えたらいいんじゃないかなという私の意見です。

○諮問会議会長（極檀忠男）

続いて、佐藤議員お願いします。

○委員外議員（佐藤孝男）

歳費については令和5年度に改正して今の報酬になっているんだけど、私は人口減も伴って、やはり今の歳費でいいのではないかなとそう感じております。

それから別の話ですが、この間、経済福祉常任委員会で調査したゴミの問題、これを諮問会議で検討してもらって本当にありがとうございます。

そういうなかで、今、皆さんも知っているとおりの1人当りの排出量というかそれが渡島で1位ということで、悪い方の1位であります。そういう中で我々の意見書として出したのは、やはり千軒にあるリサイクルセンター、当初できた時は結構町内会の方も見学に行ったり生徒も見学に行ったりしてゴミに関心を持っていただいたわけですが、そういう中で最近は忘れたというか時間が経ってゴミの出し方1つにしても大変お粗末なわけでありまして、熊の問題とかゴミに対しての。だから、やっぱりもう一度、学校の生徒それから町内会単位でもいいから施設を見学しながらゴミの減量化にやっていただきたいとそう感じております。

○諮問会議会長（極檀忠男）

わかりました。

続いて、木村議員お願いします。

○委員外議員（木村隆）

栗山が報酬を上げるという話ちょっと私知らなくて、今ちょっと調べさせてもらいました。

栗山の人口が1万1千で議員が11人なんです。今、栗山の役職のない平議員の給料が19万6千円で福島より低いんですよ。ですから、それを今5万3千円上げるといことは特段悪いことではないのかなと。人口対比でしてみたら3倍ですから福島の。それを考えたら人口の少ない我々が栗山の報酬より高いというのもどうなのかなという風に思ったりもします。単純に人口比で考えるとですね。

その福島の報酬ですけども私議員になった時に合併破綻しまして、12人の議員を10人分で歳費で割り返すという方式をやって、役職のない議員が13万1千円だったんです。それを今だんだんグングン上げてきて今は21万6千円ですから、これから出られる方は何と言いましょかね、言い方がいいか悪いか分かりませんが経験者からすると、ラッキーというか上がってきた、やっていることは一緒なんですよ13万1千円時代と今21万6千円時代と。下手すればその昔の18年前の方が忙しかったかもしれません。私としては、だから、これから出られる方はその当時の倍の報酬で出られるからいいんじゃないかなって私なんかは思います。以上です。

○諮問会議会長（極檀忠男）

続いて、熊野議員お願いします。

○委員外議員（熊野茂夫）

これはどうしても今メンバーそのものはほとんど兼業になっている先ほど平沼議員言われたように。ですから、その中でのやれるか・やれないかということの報酬歳費の額の決定ということについては、現状は現状でこれとしてきちっとした基準値を決めて、そしてここできているわけですからいいだろうと思いますけども、ただ、なり手の問題でこれから若い人方がやっていくということになるから、この報酬の額が果たして、そっちの視点から見たら大丈夫なのかなという、我々今の現状ではこれでもってこの中でやれるだろうと。

もう一点は、4年に1回選挙あるとは言えども、やっぱり議員の身分として普通一般的に就職するのであれば、会社であろうと公務員さんであろうとそこにきちっとした身分保証をもってして、そのうえでもって報酬いわゆる給料が決定されていっているわけなんですけども、なかなかそのところは議員のもとの出発点が名誉職的なところから出発して現状にいたっているわけなんですけども、実際には議員職

そのものも、それなりの職業観を持ってやらないと全然やれるような状況ではない。そのうえでの報酬としてはどうなのかなという今後については、若い人方については考える余地があるのかなと。ただし、現状のところできちっとやっぱりその基準値を出して、いわゆる町長の報酬そのものから査定をしながらこの現状をもってきているということに関しては、現状の福島の状況では課題は残りつつも、いわゆるなり手の問題との報酬の問題で課題は残りつつも、現状ではこれでもってやってきながら、その課題をしっかりとやっぱり頭に置いて後継にという考え方はするべきなんだろうなという考えです。

○**諮問会議会長（極檀忠男）**

続いて、小鹿議員お願いします。

○**委員外議員（小鹿昭義）**

私は歳費アップの方でもって書かせてもらいました。ということは、やっぱ若い人の議員のなり手20代30代、要は20代30代で結婚してそれで生活できるかといったら、現状では生活はできないと思うんですよ。だから、もっと上げて、若い人材に議員さんになってほしいなと思って歳費を上げてくださいということで書かせてもらいました。以上です。

○**諮問会議会長（極檀忠男）**

続いて、最後になりますが杉村議員お願いします。

○**委員外議員（杉村志朗）**

大変言いにくいことですが、この4町の中で福島は最初に報酬を上げてきた経緯があると思います。それで、今は木古内なり個人的な名前はあまり出したくはありませんけれども、そういういくらこのたび去年あたりそういう報酬を上げるということで、ある程度今福島の報酬に他所の町村も成り立って、揃ってきているだろうと思います。ですけれども私の考えでは、今4町の中でも実際隣町と比べても人口が100人ぐらい一番少ないんですよ。ですから、そういうこれからのまた人口の動向もあるだろうけれども、今の役場財政が本当に皆さんこういう風な条件の中で人口が一番少ないそういう中で、いつまでそういうことを報酬どうこうということよりも、もう少し町民のそういう話をどんどん私達の方にもう少し聞こえてくれるような町になった方が逆にいいのではないのかなと。

私はこの際ですから、次期の選挙には立候補しませんので、それは私個人の色々な考えの中で一応今決めておりますけども、色々やっぱりそういう議会の構成であれ、個人の色々な考え方に共鳴できるものがございませんので、私は次期選挙には出馬しません。そういうことでございます。

○**諮問会議会長（極檀忠男）**

ありがとうございました。

各議員から歳費の関係とゴミ減量化関係の話が出ました。個人的にまだ聞きたいことありますか。今の関係で。違う話題でも結構です。何か議員さん方にせかくのこういう機会ですので、議員さん方に聞きたいことがあれば、些細なことで結構ですので。

常磐井さん何かありませんか。

○**諮問会議委員（常磐井武典）**

すみません、今のところないですね。

○**諮問会議会長（極檀忠男）**

對馬さん何かありませんか。

○**諮問会議委員（對馬大輔）**

私も大丈夫です。

○**諮問会議会長（極檀忠男）**

清水さんは。

○**諮問会議委員（清水紘太）**

そもそも、新しい人が議員になるうえで、今の現職の議員の皆さんも本業、本業の中の専門職を持ったなかで議員をやっていると思うんです。となると、それぞれの個性とか色を持ちながら議員をやっているなかで、議員さんの皆さんが求めている議員の人材、具体的なそういう若い人、女性の方というのは十分分かっているんですけど、その中でも例えばどういう知識を持った人、ちょっと言いますと固くなるんですけど、どういう人が議員に向いているとか、どういう人が欲しいとか、そういうのも具体的に言ってほしいなという感じなんですよね。ただ単に若い人になってほしいとか、女性の方がいいというだけでは、

なかなか難しいですけどね、やっぱりそれほど知識を持った人も必要だと思うし、まちの事も知っている人も人材にならないといけないとは思いますが、ちょっとそういうのをなかなか聞いたことがないので、大体いつも若い人がとか女性の人にやってほしいということぐらいしか僕らも出されないので、具体的なそういう人材像もしあるのであれば、ちょっと教えていただきたいなという感じです。

○諮問会議会長（極檀忠男）

議長どうですか。

○議長（溝部幸基）

そう言われるとなかなか難しいですね。ですから、自分の議員になった成り立ちみたいなもの考えると、私は27歳の時に初めて立候補したんですね。その背景的なものというのは、一つは当時青年団という若い人達のそれは職域と関係なくですね昔はどここの町村でもあったような青年団というそれが一つ入っていたということと、それと仕事の関係上、商工会の青年部というのが清水さんも今なっていますけども、そういう形の中で集まってよく色んなイベントをやったり事業をやったりしているそういう中から立候補したらどうだという声も話があって、それで青年団時代に町の方に当時は公民館がまだなくて、それからちょうど議会の議長さんが函館で暴行事件あってそれが新聞に出たりしていたので、そういう事項を何項目か整理して町の方に要望したいなものを出したんですね。青年団として初めて出して、そういうことで関心を持って、結構それに対する色んな圧力みたいなものがあったんですけども、そういう活動を積み上げた背景があって、そういう仲間とか若いメンバーで出たらいいだろうと、当然その年代の議員さんはいませんでしたからね。それがきっかけですね。

ですから、これは諮問会議の中でもそうなんですけども、議会の方も各団体の若い人、それから併せて女性団体とかそういう方に呼びかけてお願いしているというのが、そういう活動から見た議会の活動や町政の状況みたいなものに触れる見方ができていけば、私は商工会でも漁業関係でも農業でもほかの色んな文化団体とかのメンバーの視点で町の状況も見ているというのが大事な視点になってくるので、きっかけになるのかなと思って色々呼びかけているんですけども、なかなか難しいですよ。いざ選挙になると。そういう状況、ちょっと回答になるかどうか分からないですけど。

○諮問会議会長（極檀忠男）

今議長言ったんですけども、根本には色んな活動、若い時からの活動で色んな繋がりがあって、その仲間から押し上げられたという経緯がありますけども、そういうきっかけですよ。きっかけをつくるために、今日とか運営委員も諮問委員の方々も各団体の代表の方々が集まっていますので、こういう方々がきっかけで本当は理想とすれば議員さんの次のなり手の方ということで、進めて行ければなということと今日の議会モニターということもありますけど、そういう人達が諮問委員さん兼ねていますけど、そういう方々が一番重要視されるのかなと気がします。

そういうことで、議員さんのなり手とか理想、各議員さん方あと何かそれに関して意見がありましたら、こっちから指名かけますので。

藤山議員。

○委員外議員（藤山大）

先程の清水さんの質問のなかで、本来であれば専門職で議員としてやっていくのは私はベストだと思いますよ。けど今福島町にそういう人がいるかと言ったら、なかなかいない面もあります。

じゃあ専門職で誰かやるにしても、じゃあこの今の歳費でやっていけるか。例えばですけど、奥さんいて子供いてという現状で21万6千円でこれで専門職でやっていけるかと言われたら、どうですか。

やっぱり何らかの仕事をしないと、うちらとしたら望むものは本来であれば専門職でこの今の歳費でやってくれるのはベストです。でも、求めるものと現状は違うので、回答どうこう分からないですけど、と思います。

逆にちょっと僕の方から皆さんに対して質問していいですか。

今回、議員の定数が10名に対して9名だったというところで、議会としたら結構重く受け止めている部分もあるんですけど、それに対して町民の皆さんはどう思ったのか。

例えばですけど、足りない、次から出なきゃならないとか、例えばですけど何も思わなかったら何も感じない。その辺をちょっと逆に聞きたいのはそこなんですよね。ここで何らかの、今回10名に対して9人になったことに対して次頑張っていきたいなみたいなそんな意欲、もしくは何も思わなかったら何も思

わなかったで別にいいんですが、その辺をちょっと聞きたいなと思います。

まだ決定事項じゃないですが、今回10人に対して9名で定数割れだったということに対して、どう思っているかお尋ねしたいなど。皆様に逆に聞きたいです。

○議長（溝部幸基）

それ諮問している。

○副議長（平野隆雄）

出てる。結果出ているんだよ。

○委員外議員（佐藤孝男）

これから町民との懇談会あるからそういう中で色々聞いて。

○委員外議員（藤山大）

率直な意見だけ、本当にそれぞれみんな考え方違うと思いますので。

○諮問会議会長（極檀忠男）

今のテーマはとりあえず今の中で議員としての理想としてはどうですかって議員さん方思っていることをお尋ねしているので。

平沼議会運営委員長。

○議会運営委員長（平沼昌平）

さっきの清水さんの考えに対して、私は専門的な知識というのはいらんんじゃないのかなと思う。どれだけ福島で暮らしやすい生活を自分が求めていくか、理想としてどうあるべきかという純粋な気持ちがあれば、十分町議になれる資格というか意欲も出て来ると思うんですよ。

人のためにというよりも、人というか自分のためにもなるけども福島でどっちみちずっと暮らしていくということになると、やっぱり住みよい生活しやすい、住みよいも生活しやすいもそうですけども、そういう環境をつくるかそういうまちづくりの理想論というのは自分で持っていくべきだと思うんですよ。

その理想論を我々よりもやっぱり若い世代の人達という言葉が適切かどうか分かりません。けども、違う環境でやっぱり新しい知識・知恵を持った我々よりも確実に持っている年代的に若い人達が議員になってくれば、これは福島も我々のレベルで今話しているよりも、もっと飛躍したまちづくりができると思うんですよ。一方、女性という感覚でいくと、我々こういう風に男性ばかりで、いくら男性で物価がどうだ、物の価格がどうだって分かったようなことを言いますけども、この中で今キャベツの値段いくらですかって言った時にボンって言える人なんて私も言えないですけど……………。

（「200円くらいだよ」という声あり）

くらいでしょ。だから、そのレベルだと思うんですよ。その生活の基盤となるべき本当に繊細なもの考え方というか、そういうのはやっぱり女性の方には敵わないって。

それはやっぱりこのまちづくりに欠けているなっていう感じがするんです。だから専門的な知識は役場の職員の人には敵いません。それが専門でやっているわけですから。でも、その専門職でも前しか見えなけれど横道が我々見えているのであれば、その横道から前の見方を教えるとか提案するとかそういう考え方がやっぱり議員に求められているのかなと思うんです。だからそういう意味で私は若い人・女性の人というのはそこにあると思うんです。いかにこの福島で暮らしていくうえで必要な人材だと自分が自覚してやれるかやれないかということだと思うんですよ。お粗末でした。

○諮問会議会長（極檀忠男）

そのほかご意見ありませんか。

○委員外議員（熊野茂夫）

単純明快で福島町民であって、あれば、私はいいんだという感覚。スタートの時点で。だから難しいこととか何とか、例えば25歳だろうと30歳であろうと、年齢を重ねていって60、70になってからであっても人それぞれやっぱりその中で歩んできた福島の中で生活してきたというのが、いっぱい色んなこと持っていると思うんですよ。

ですから、入口のところはそれで十分だろうし、その中で思うことそのことが具体化するために町の中で発言する。最もやっぱり町を作っていく場所でもって行政も対峙しながら自分の意見を述べながらまちづくりに参加していくという、そのあとの経験の中でそれぞれがやっぱり色んな知識も経験値も上がってくるだろうと思うんですよ。ですから、何にもこういうものを専門職を持っているからとか、こうだから

とかという感覚で縛られることなくやってみて、その中から学んでいくということの方が多いため、それが結果として町民のためだったりまちづくりのために一翼に少しでもなっていくという、その感性さえ持ってくれば私は町民であれば、いわゆる今の法的なところで立候補できる範囲にいる福島町民であればそれはいいだろうと思います。

それが、これだけの人数いわゆる定数がいて色んな議論を交わして、そして行政側と色んなことをやり取りしながら結果を出していくというそういう立場にあるので、こういうイメージ、こういう人、確かに色んな経験値を持っている人もそのことはあるだろうと思いますけども、でも、スタート時点としてはこのところには一切こだわる必要はないのかなと。あとは本人自身が今は兼業でやっていくというこういう風な状況のなかで、自分の身近なこととかそういうことの折り合いがつけられていくということと、その決断を持ってすれば、私はそれでいいのではないのかなと思うんですけども。

○諮問会議会長（極檀忠男）

平野副議長。

○副議長（平野隆雄）

清水さんの質問に対して、自分自身のことをちょっと、今まで誰にも言ったことないですけども言いたいと思います。

家の隣のスタンドの当時の社長議員やっています、それで、議員辞めて、自分は簡単にやれるのかなと思って俺出たいから・やりたいからという話をした。そしたらね全然駄目さ。仕事一生懸命やれって終わりさ。それで4年経って、その時にまたお願いしたというか話をした。その時も駄目だった。答えは同じだった。商売一生懸命やれという話。8年経ちましたね。8年経って、これは相談しても駄目だなということで自分自身で立ったということでそんなに票とれなかったんだけども当選させていただいて、結果的に4年遅かったなというのが常に今でも思っていますよね。

だから若い人と言えど変だけど、やるかなとと思っている人はやってみた方がいいですよ。これはいつまでも命ある限り、あの時なあとというかそういうことがあるかも分かりません。そういうことで自分でやるのが一番いいと思います。以上です。

○諮問会議会長（極檀忠男）

その他ご意見ありませんか。

佐藤議員。

○委員外議員（佐藤孝男）

私のことも思い出して言いますが、私も40歳で町議になりました。そのなかで、全く考えていなかったわけです。しかしながら、地域の町内会町やって、そのなかで地域が議員がいなければ千軒とか岩部とか離れた所が一番置き去りになる可能性があるということで、是非とも私に町議に立候補して地域を盛り上げてくれということで最初立ったものです。

したからね、おそらく離れたところ昔は私立った頃は千軒地区は千軒地区で一番何の事業でも遅いと。ほかの地域はみんな町議が出て、色んな事業でも先にやってもらえると。だからそういう地域の声を町政に反映してくれということで、そういうことで立候補して立ったわけです。そして現在に至るわけですが、今は町内会単位という町内会で「あんたが町議に適しているから立ちなさい」という町内会の人がいなくなったんだよね今は。ここに立っている人はいたかもしれないけど、したからそういう地域でも案外と議員に対しての関心度が低いというか、そういうことも1つの大きな原因だと思うんだよね。

○諮問会議会長（極檀忠男）

その他ございませんか。

（「なし」という声あり）

○諮問会議会長（極檀忠男）

ないようですので、各議員さんからなり手の議員さんのエピソードというお話していただきました。

確かに時代が変わってしまっていて、人口の減少されている時代色々変化されていると思いますけども、私の記憶の中では各町内会、例えば岩部・日の出・浦和、各町内会から1名ずつ議員が出ていたという時代もありましたよね。それから見ると、その頃は人口も1万3千人何人くらいの人口でしたから、その時代から見ると何となく消滅ということもありますし、変化されています。したがって、町民の考え方も変わってきていますし議員の考え方も変わってきているということは確かに間違いのないと思います。

そのなかでどうしたらいいかということで、それはこれから皆さんとまた協議してお話していきたいと思えます。

全体的に何かございませんか。

平沼議会運営委員長。

○**議会運営委員長（平沼昌平）**

1ついいですか。質問というよりも今回この諮問委員の皆さんになっていただいたのは、教育関係団体の推薦、それから産業関係の団体の推薦ということで各団体から1名ずつ出てきていただいているんですけども、先ほど議長も言ったんですけど、できればこの団体からという、なり手・担い手がある程度考えていたんですけども、皆さんの所属している教育関係とか産業団体それぞれ問題持っていますよね。持っていますよね、やっぱり。だってそういう議案が出てくる。例えば、漁業協同組合の福島でも吉岡でもそれから女性団体でも農業委員会でもそうです。それからスポーツ団体でもそうだと思うんですよ。その意見がせっかくその団体を代表して出てきているのに、なぜ何もないのかと。

これはやっぱり「行け」と言われたから来たのかなという感じに受け取らざるを得ないというか、商工青年部でももっとこの青年部に対して議員の考え方というか方向性を出してほしいとかという考えが私は反対に言ってもらえればなと思うんです。

言わせてもらってなんですけども、それぞれの団体みんな何かしらの財政的にでも、それから何かアクション起こす時の不自由さでもあると思うんです。だから、そういうのをやっぱり危機感を共有するというか、そういう面では反対に何かないのかなと思います。それを何とかしてやりたいなって、何とかしたいな、何とかしていかなくやなんないと言うのであれば、その団体からやはりそういう立候補とかという気持ちが芽生えてきても良かったのかなと思うんですね。

ですから、やり残しているなと思ったら、次年度のまた諮問委員になっていただきたいなと。このように思っています。一方、公募で手を挙がってなられた今回常磐井さんなんですけども、なり手になってくださいというか議員としてやっていくためには、やっぱり理想論ってあると思うんですよ。今まだそれが芽生えていないのかどうなのか分からないんですけど、私はこういう意味で福島を変えていきたいというものが先ほどから答弁聞いていると「今はありません」ではちょっとどうかなと思うんですけども、いかがですか。ちょっときつい言い方になりますけどね。そういうもんだと思うんです。そういう意味で団体から出てきていると思うんです。団体の考えを言ってこいという感じで代表で出てきているわけですから。

○**諮問会議会長（極檀忠男）**

よろしいですか。

平沼議員からは、はっばかけられて……………。

○**委員外議員（熊野茂夫）**

それは諮問委員会という形とれば、どうしても議会からの色々な……………。

○**議会運営委員長（平沼昌平）**

だから今日は懇談だから……………。

枠外して……………。

「（発言する者あり）」

○**委員外議員（熊野茂夫）**

それに対する考え方どうですかという話に当然なると思うんだよね。

○**議会運営委員長（平沼昌平）**

ざっくばらんにね。

○**委員外議員（熊野茂夫）**

だけでも、もっと大きなあれでもって、それぞれさっき言われたようなテーマを議会の方にこういうことはどうなっているのか、こうだよという風な意見を出すような場所としてのここの設定の仕方もあるれば、またそれでもって出る可能性もあるのかなと思うんですけども、もう2回ぐらい出てきている……………。

○**議会運営委員長（平沼昌平）**

必ず「その他」というのがあるからね。

○**委員外議員（熊野茂夫）**

その辺の事も会議のやり方もあるのかなとは思いますが。

○**諮問会議会長（極檀忠男）**

今回諮問会議の中では初めての試みですからね。議員との懇談会とか、例えばスポーツ団体との懇談会とか以前やっていたけど文化団体とかそれは今も継続してやっていますかね。

○**議長（溝部幸基）**

一応基本的に……。

○**議会運営委員長（平沼昌平）**

議会は議会でやっていますよ。

○**議長（溝部幸基）**

任期の中では必ず1回は。この前も少年団とスポーツ団体と懇談会をやりました。

○**議会運営委員長（平沼昌平）**

やっぱりいつも思うんです各産業団体なんかも。やっぱり我々漁業関係者ではないので、言うことでも又聞きでこういう風にしたらいんじゃないですか行政の方に言うんですけれども、やっぱり専門職でやっている方がここをこういう風にして言ってもらえないとか、やればいいんじゃないかという考えが、やっぱりこういう場で話し合っ、うちの団体は例えば青年部は皆こういう風な考え方しているんだけどという代表で来ているわけですから、こういう考え方持っているんだけど議会でどうなんだろうとやってやっぱり一番接点に近いんですね。こういう場がね。女性部もそうですよ。だから言い残したと思うでしょ今までの会議の中で。だから次のね、議長ね。

○**議長（溝部幸基）**

町長部局の方の同じような組織で例えば総合計画の審議会とかそういう分では必ず産業団体とか文化団体の代表が出てきたりしているしね、だから一概にそういう風にといいことには私はならないと思う。そういうところまで言ったら多分行きませんって断られると思うんだよね。とにかくとりあえず、ちょっと言葉悪いけども、とりあえず行ってくれないかみたいな頼まれ方でなかったかなと。

○**議会運営委員長（平沼昌平）**

でも一番身近だからね。

○**議長（溝部幸基）**

今日みたいに本当は諮問会議の最後の部分で必ず何かあったらと言うんですけれども、なかなか出てこないというのが実態なんですけどね。

青年部とも色々交流もありますしね総会に出て行ったりして、あと、私が議員やった頃は当時のその前までは漁業組合の組合長さんが議長さんやっていた時代もありますしね。ですから何人かは漁業関係者の議員さんもいたんですけども、だんだんいなくなって今は漁業関係の人が誰もいないというのがそれも実態ですよ。ですから、できればそういう形で誰か出てきてくれれば。特には、何回も言っていますが女性議員さんも滝川さんが亡くなってからは出てきてこれないというような状況にありますし、やっぱり女性の視点で特に子育ての関係とかという部分ではウエイト的に大きな部分があるので、そういう部分では女性の視点で議会を色々色んなことできる人が出てくれればなという風に思いますし、若い人も出てくれればと思うんですけれども、なかなか難しいですよ。

○**諮問会議会長（極檀忠男）**

このあと議会の方では各町内会懇談会ということで回って歩くということ。

○**議長（溝部幸基）**

いつものとおり来年2月3日から6日間予定して、もう回ったのかい？町内会。

このあと各委員長が班別に各町内会長にお願いをして歩くんですけども、そういった部分では冒頭話したように、今の議会改革の部分の話も色々意見伺って、そのあと纏めて対応していきたいと思います。

○**諮問会議会長（極檀忠男）**

そういうことで町内会回るそうですけれども、今日言い足りなかったことありましたらそちらの方でまたお話ししても結構ですし、今後また諮問委員会には継続されますので。

○**議長（溝部幸基）**

色んな団体と懇談する場合には必ず最後に「いつでも声かけてくれれば、議会の方から伺います。」ということを行っているんですけども、なかなか団体の方から来るというのは、今回は少年団の方は少年団

の方から懇談してくれと来たんですよね。ですから遠慮なく声かけてくれれば、誰々何々議員って指名をしてもいいので、声かけてくれればそういう機会をつくるようにしますので、あまり全員揃っているとかなかなか気軽に話できない雰囲気だという風に思いました。

○諮問会議会長（極檀忠男）

わかりました。

その他はありませんでしょうか。

（「ありません」という声あり）

○諮問会議会長（極檀忠男）

なければ、大体この辺で閉めたいと思います。

諮問会議の第1 予定事項というか、議員のなり手不足これをどうするかということで、色々な議員さんからのご意見も出ましたし、皆さんから意見聞きました。

一番いいのはこの諮問会議という委員さん方は各団体代表者ですからこの中から出ていただければ大変助かるということです。そういうことで閉めたいと思います。

それでは時間になりましたので、この辺で懇談を終わらせていただきます。

色々な意見が出たと思いますので、出された意見については今後の議会運営の参考にさせていただければと思いますので、よろしくお願ひします。

これをもちまして、本日の会議を終了いたします。

皆様、どうもご苦労さまでした。

（閉会 19時34分）